

廃棄物処理・リサイクル施設の整備推進(公共)

～廃棄物分野での更なる温暖化対策の推進～

循環型社会をリードする 高効率ごみ発電施設の導入推進

焼却処理に伴い生じるエネルギーの有効利用を行う高効率なごみ発電施設について、低炭素社会実現の切り札として積極的な拡充支援を行う

効率的なごみ収集・輸送を実現 するための施設の整備

効率的なごみの収集・輸送と更なる広域化を推進するため、収集した廃棄物の圧縮・積み替え等を効果的に行える施設の整備を支援

廃棄物系バイオマス利活用 のためのごみ燃料化施設の推進

バイオマスエネルギーの普及加速化のため、特にBDF化施設、エタノール燃料化施設について拡充支援

効率的な汚泥収集・処理 のための設備増強

汚泥の効率的なバイオマス利用を一層促進するため、移動式汚泥濃縮・脱水装置の整備を支援

循環型社会形成推進交付金

循環型社会形成推進地域計画

～国、都道府県、市町村が構想段階から協働～

○対象地域 人口5万人以上又は面積400km²以上の地域を構成する市町村

(沖縄、離島等は特例として対象)

○3R推進のための目標

発生抑制	一人一日当たりのごみの量(○年比△%減)
リサイクル	リサイクル率(○年比△%増)
エネルギー回収	ごみトン当たり発電電力量(○kWh/t)
最終処分	最終処分されるごみの量(○年比△%減)

【今後】

ごみ処理事業のCO₂削減量、熱利用量、バイオマス利用量等の目標設定を検討

○目標を実現するための政策パッケージ

- ・マテリアルリサイクル推進施設 : 容器包装リサイクル、リサイクルセンター
- ・エネルギー回収推進施設 : 高効率発電(増設含む)・生ごみバイオガス化
- ・有機性廃棄物リサイクル推進施設 : 肥飼料化、汚泥再生処理センター
- ・浄化槽 : 経済的・効率的な生活排水処理
- ・最終処分場 : 安全で信頼性の高い最終処分、最終処分場再生事業
- ・計画支援事業 : 生活環境影響調査等

★PFI事業も同様に交付金で支援: 廃棄物分野のPFI導入は19件(地方自治体PFI導入件数の1割)

○交付金の額の算定

対象事業費の1/3を市町村に一括交付。ただし、循環型社会の形成をリードする先進的モデル施設である高効率メタン回収プラント(バイオガスの回収効率150Nm³/t以上、かつバイオガス発生量3,000Nm³/日以上)、高効率ごみ発電施設(発電効率23%相当以上、規模により異なる)は対象事業費の1/2を交付。

※平成21年度以降: ①循環型社会形成推進地域計画を一廃処理計画で代替可、②地域協議会設置義務を廃止

廃棄物処理施設における温暖化対策事業(エネルギー対策特別会計)

「高効率な廃棄物エネルギー利用施設」や「高効率なバイオマスエネルギー利用施設」等の整備事業投資の増加費用等に対して補助するもの。平成20年度は、予算額2,117,000千円、採択件数7件。

補助対象施設、対象の条件一覧

	対象施設	対象の条件
①	廃棄物発電	○ORDF発電：23%～28%以上(日当り処理量により異なる) ○ガスリパワリング廃棄物発電：20%以上 ③その他：15%以上 ※いずれも発電効率
②	バイオマス発電	○蒸気タービン方式：10%以上 ②その他：25%以上 ※いずれも発電効率
③	廃棄物熱供給	○廃棄物から得られる熱量：6.28GJ/h以上
④	バイオマス熱供給	○バイオマスから得られる熱量：1.26GJ/h以上
⑤	バイオマスコージェネレーション	○発電出力：50kW以上、省エネ率：10%以上
⑥	廃棄物燃料製造	○エネルギー回収率60%以上で、かつ発熱量が ・12.56MJ/kg以上(固形) ・33.49MJ/kg以上(液化) ・4.19MJ/Nm ³ 以上(ガス化)
⑦	バイオマス燃料	○メタン発酵方式：製造量300Nm ³ /日以上、かつ発熱量18.84MJ/Nm ³ 以上 ○その他：エネルギー回収率50%以上、かつ発熱量 ・12.56MJ/kg以上(固形) ・16.75MJ/kg以上(液化) ・4.19MJ/Nm ³ 以上(ガス化)
⑧	ごみ発電ネットワーク	○総発電量増加量10GWh/年以上、発電効率向上2%以上
⑨	熱輸送システム	○輸送される熱量12.56GJ/日以上

●補助対象者：民間事業者等(①～⑦は廃棄物処理業者を主たる業とする事業者)

●補助内容：①～⑦：高効率化を図ることにより追加的に生じる施設整備費用
(補助対象となる施設整備費の1/3を限度)

⑧、⑨：補助対象となる施設整備費の1/2

廃棄物系バイオマス次世代活用推進事業 (334百万円)

○廃棄物系バイオマスの現状

- ・廃棄物系バイオマスの賦存量は約3億万トン、うち未利用が約30%
- ・特に、食品廃棄物は未利用率が約80%を占め、大きなポテンシャル(広く浅く分布するため、効率的な分別、運搬方法が課題)
- ・バイオマスの利活用は国内温暖化対策の鍵
 (「環境立国戦略」、「バイオマス・ニッポン総合戦略」等で推進)

(参考)

我が国のバイオマス賦存量・利用率(2006年)

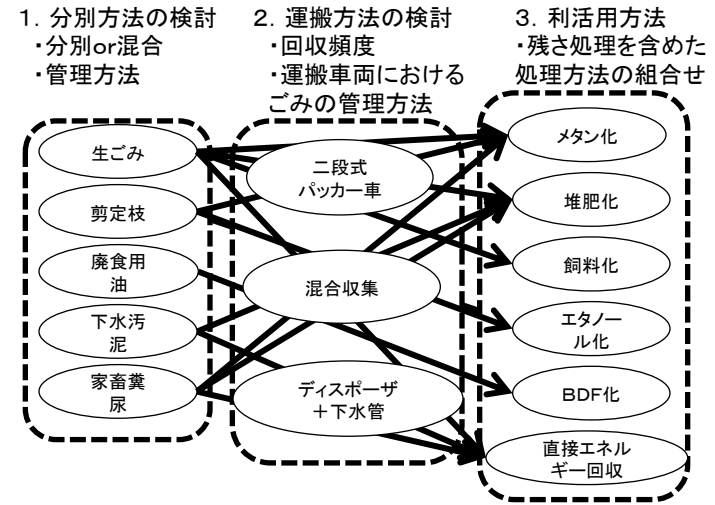


○廃棄物系バイオマスの利活用方策を検討

- ・再生利活用率を高めるための課題を整理
- ・性状、排出量、地理的条件に応じた利活用方策の全体像を検討
- ・モデル地区において実証、多角的評価を実施
 <先進的な取組の一例>
 【メタン化】生ごみのメタン発酵による発電と肥料製造
 【エタノール化】食品廃棄物(炭水化物)の糖化によるエタノールの製造 等

モデル地区における実証実験

～実現性の高い処理パターンの検討～



地域特性に応じた合理的かつ実現可能な廃棄物系バイオマスの利活用を大幅に促進